

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成26年 6月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900530		
法人名	有限会社 イツキケアサービス		
事業所名	ぐるーぷはうす なごみ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府富田林市東板持町三丁目15番5号		
自己評価作成日	平成26年5月15日	評価結果市町村受理日	平成26年8月14日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成26年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「その人らしさを大切に」を理念に、普通の家での暮らしに近づけるよう、ゆったりとした生活を心がけています。自発的・主体性を持って送れるよう見守り、支えあいながらお世話させていただきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「ぐるーぷはうす なごみ」は改装した民家を使用しており、周囲の住宅と違和感なく溶け込み、我が家のように落ち着いた暮らしを送れるような設えとなっている。石灯笼や岩などを配した日本庭園風の庭にテーブルとガーデンチェアを置き、季節の草花や野菜を眺めながら、寛ぐことができる。</p> <p>職員は、事業所理念を理解し、利用者の暮らしの希望に添えるよう、月1回介護相談員を受け入れたり、日頃のコミュニケーションから希望や要望を聴き取り、「その人らしさを大切に」する理念の実践に努めている。利用者家族に対しても、ホームへの来訪時や日頃の電話での話し合いの他、年1回の無記名式アンケートを実施し、家族からの意見や要望等を積極的に取り入れている。また運営推進会議や事業所行事の際には家族にも呼びかけ、家族参加の行事運営に努めている。</p> <p>食事については、1週間分の食材をまとめて購入し、その日の調理担当者が、在庫食材や前日までの献立を参考にメニューを決めて調理するといったユニークな手法を取り入れており、利用者の意見や希望を反映しやすい、より家庭的な食事の提供に取り組んでいる。</p> <p>また地域とは、良好な関係を育み、盆踊り、草引きや「ふれあい喫茶」などの地域行事での交流の他、日頃の散歩などで顔を合わせながら、利用者が地域での暮らしを継続できるよう、その支援に取り組んでいる。事業所の避難訓練時には近隣の住民も参加し、住民からのアドバイスを受けながら日頃から地域とともに災害対策に取り組んでいる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲げ、利用者様一人ひとりの目標に沿い安心して暮らしていける環境作りをしています。	「その人らしさを大切に自発的、主体性もち支え合う」を事業所理念としている。玄関等事業所内に掲示する他、なごみ便りに掲載し、広く理念の周知に努めている。職員は採用時の新人研修や月1回の定例会議の中で、理念の確認を行い、日頃のケアにおいて理念の実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園の草ひきやふれあい喫茶への参加や回覧板を利用者様と回したりして地域の一員として交流をしています。	自治会に加入している。自治会が実施する毎週水曜日の「ふれあい喫茶」や年2回の草引きに利用者は職員と一緒に参加している。また、花見、盆踊りなどの地域の行事やPL花火見物など、地域住民と触れ合う機会を積極的に利用している。不測の事態に備え、利用者に関する情報を自治会を通じて開示し、地域で認知症高齢者を支える体制を構築する取り組みを行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の公園清掃にも利用者様と参加し地域の方にも支援の方法等を理解してもらうように努力しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催をしている。	2ヶ月に1回開催している。利用者とその家族、地域包括支援センター職員、民生委員などが参加している。事業所の活動報告をはじめ、事業所や地域の行事の案内など活発な意見交換を行なっている。議事録は事業所内に掲示しており、職員間で情報を共有し、日々のサービスの向上に活かすとともに、市の高齢介護課に提出している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	利用者様の諸申請や書類の提出。また、疑問点の相談等にも行っています。	市の担当者には、運営推進会議の議事録を提出し、事業所の情報を提供している。ただし、日頃は、介護保険制度等の疑問点や解釈の仕方がわからない場合に、市の担当者と連絡を取る程度で、特に、綿密な協力関係はない。	運営推進会議の開催前に市の担当者に会議に出席してもらえるようはたらきかけをし、より密接な協力関係が築けるような取り組みに期待したい。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>施設外研修で学び、身体拘束のない介護を学んでいる。また、なごみにおいては身体拘束は行っていません。</p>	<p>身体拘束に関する研修は、採用時の新人研修で実施する他、年に1回は職員のうち希望者が外部研修に参加しており、未受講の職員に対しては月1回の定例会議で伝達講習を実施し、研修内容をフィードバックすることで、職員のスキルアップを図っている。日頃から「身体拘束ゼロ」の実践に向けて全職員が取り組んでおり、日中は玄関及び門扉への施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設外研修で学び、虐待のない介護を学んでいる。また、なごみにおいては虐待は全てにおいて行っていません。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設外研修で権利擁護に関する制度を学び、実践に活用できるようにしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用の際、専門用語は使わずゆっくりと話し、理解・納得を得られるようにしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>広報なごみだよりでの問いかけやご家族の来所時に聞き取りをする他、アンケートを実施しています。</p>	<p>月に1回、地域の介護相談員が来所したり、職員との日々のコミュニケーションを通じて、利用者の要望等を聴き取っている。家族とは来所の際や日頃の電話連絡に合わせて聴き取ることとしている。また年に1回、利用者家族全員に無記名式のアンケートを実施し、運営面等の意見や要望の聴き取りを行っている。寄せられた意見等の内容は業務日誌や介護日誌に記入し、職員間の共有に努める他、日頃のサービスに反映させている。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>常に直接話を聞いたり、また、月1回の会議では全スタッフの意見を聞き反映させています。</p>	<p>職員の意見や提案等は、日々の申し送り時や月1回の定例会議において代表者や管理者が直接聴く機会を設けている。また、介護職員同士のミーティングを適宜実施しており、外出等の行事の企画を立案するなど、日頃から職員の意見や提案が反映されやすい体制を築いている。外出時の車両の使用に関する提案を実現するなど、職員の活発な意見交換による運営面の改善事例は多い。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は年1回全スタッフとの個別面談を行い聞き取りをし、ストレス等の軽減を図っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年、各自最低1回は施設外研修に参加し、また毎月1回を目標に施設内研修を行いスキルアップを図っています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の施設会に加入や介護相談員の受け入れをしています。また、管理者は2ヶ月に1回をめどに同業者と交流をしています。？</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人やご家族も含め、話を傾聴し聞き取りながら信頼関係の構築に努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人やご家族も含め、話を傾聴し聞き取りながら信頼関係の構築に努めています。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>インタビューやアセスメントを十分に行いニーズを理解するように努めています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の出来る事を職員と共にやり共同生活を実感していただけるよう努めています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>生活状況を報告する等、連絡を密にし、来所時にはご本人と一緒に食事していただいたり、行事に参加していただくなど、誠心誠意をもって対応しています。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>スタッフと一緒に行きつけのお店に行くなどして関係が途切れないよう努めています。</p>	<p>利用者の馴染みの喫茶店を聞き、職員と一緒に訪問したり、コーヒー豆を買いに行ったりしている。友人から年賀状が届けば、職員と一緒に返事を書いて送り届けるなど馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また、ふれあい喫茶に出向くことを積極的に勧めることで、地域との馴染みの関係づくりにつながっている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>少人数なので利用者同士の関わりが少ないですが、スタッフがお手伝いして利用者が共同で作業が出来るように努めています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後、自宅へ訪問してお話を聞き相談させてもらっています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションを通じて信頼関係の構築を図り、思い・希望等の聞き取りに努めています。</p>	<p>職員が積極的に声掛けをし、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞いている。家族から聴き取ることもある。読書が好きな利用者には、職員が付き添って図書館に向いたり、好きなパジャマを職員と一緒に買いに行くなど、本人本位の暮らしの実践に努めている。聴き取った内容は業務日誌、介護日誌に記録し、職員間で情報を共有し、日々のケアで反映している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ご本人、ご家族、関係者との信頼関係を築き、情報収集の把握に努めています。</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>【ご様子】【出来る事】【出来ない事】【特変】等、関心を持ち、お一人様毎のケア記録へ詳細に記入しスタッフ間の情報の共有を図っています。</p>	/	/
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族が来所された時や電話連絡の際、スタッフと話し合い、その人に合ったケアプラン作成をしています。</p>	<p>ケアカンファレンスは、事業所職員、ケアマネジャーの他、利用者本人、家族、医師や看護師など必要な関係者が参加して実施している。6ヶ月ごとのモニタリングで計画の見直しを行い、また、利用者に変化があった場合は随時見直している。家族にはカンファレンスへの参加を呼びかけているが、参加が無理な場合は、日頃のコミュニケーションであらかじめ把握している意見や希望、提案などを反映した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者毎に細かく記録し情報の共有を心がけケアプランの見直しにも活かしています。</p>	/	/

28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事以外でも外出するなど利用者様の生活にメリハリをつけています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達との交流の場ふれあい喫茶や町内会行事の参加。また、回覧板を回していただくなど地域資源を活用しています。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日：歯科医、毎週水曜日：ドクター、毎週金曜日：看護師の往診。必要な時は他医療機関への紹介状も出してもらっています。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医へ、基本的に家族の付き添いにより通院しているが、協力医による往診を希望し、協力医をかかりつけ医に変更する利用者も多い。受診結果は、介護記録に記入し、家族の来所時に閲覧してもらうこととしているが、必要に応じて家族に電話連絡を行っている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎週金曜日の看護師に利用者毎に記録してもらい、状態の変化のあるときにはいつでも連絡し相談しています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様・ドクターとの話し合いに同席し、情報の共有、交換をし、時間を作り、必要時に出向いています。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所作成の看取り指針に基づき、重度化前に話し合いの場を設けています。また、スタッフとはマニュアルを作成し、チームケアに取り組んでいます。	入居時に重度化や終末期を迎えた際の看取りの対応についての希望を家族から口頭で聴き取っている。終末期が近づき、必要と思われる時期に看取り指針を交付し、家族、協力医、介護支援専門員、職員間で話し合い、情報共有しながら利用者本位の支援を行っている。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師主催の勉強会を実施。また、緊急連絡先も目につく場所に提示している。今後は定期的に勉強会を催していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難通路の確保・避難誘導介助・連絡・初期消火など年2回の昼夜訓練を行っている。	日中と夜間想定之年2回の消防訓練を行っている。日中訓練は消防署立会いの下で近隣住民にも参加を呼び掛け実施しており、参加した住民からの助言をもらうなど、日頃から地域との協力体制を得やすい関係を築いている。夜間想定については、日没後の暗くなった時間帯に避難訓練を実施し、全職員どちらかの訓練に参加できるようにしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	“ご本人が出来る事は自分でしてもらい、自分で出来ない事をスタッフが介助する”の考えを実践します。	新人研修で人権・プライバシーに関する研修を行っている他、社外研修を受けた場合は、受講者が資料を元に伝達研修を実施している。管理者は、利用者への声掛けなどの言葉遣いは日常的に気を配っており、気づいたことがあればその都度、職員へ注意を促している。	請求業務は本社にて行っているものの、日常的な事務は利用者の出入り可能な食堂で作業しているため、書類の保管方法を検討する必要がある。個人ファイル等は、鍵のかかる書庫での保管が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を構築し、話しやすい環境を作って、自己決定していただける雰囲気を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとしたペースでご本人と関わり、“その人らしさを大切に”を大事にしていきたいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	翌日着る服を選んでもらったり、髭剃りや身だしなみを重視するよう努めています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・片付け等出来る事をスタッフと一緒にしています。</p>	<p>1週間分の食材を購入し、その在庫分からその日の担当職員が利用者の希望も聴きながら献立を決めている。利用者は、調理、テーブル拭き、洗い物などできることを職員と一緒にしている。月に1度は回転すしなどの外食に出かけたり、家族参加で、公園で弁当を食べたり、近くを流れる石川の河原でお好み焼きや焼きそばを作って楽しむ等、食事を楽しめる工夫をしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>偏った食事やメニューにならないように努め、カロリー制限必要な方には、ラカント糖を使用したり、味付けの工夫をしています。管理栄養士による栄養指導も行っています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行い、義歯は週2回薬剤で清潔を保持し、毎週月曜日には歯科医にて口腔ケアもしています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>決まった時間だけでなく、ご本人の排泄パターンにのって誘導するよう努めています。</p>	<p>利用者ごとの排泄パターンにより声掛けをし、トイレへの誘導を行なっている。深夜は午後10時から2時間おきに巡視し、排泄の状態を確認し対応している。排便についてはチェック表の記録により排泄パターンを確認し、便通の管理も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘傾向にある方には、食事内容を考慮し、水分補給を勧め、軽運動も行えるよう支援していきます。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には入浴日を決めているが、入浴順番は決めていない。その日の体調に応じて入浴して頂いている。</p>	<p>月木土の午前10時過ぎから午後2時30分頃までと基本的な入浴時間は決まっている。しかし利用者の気分や体調により変更したり、希望があればいつでも入浴できるようにしている。同性介助である。さらに、利用者の散歩後のシャワー浴や、入浴日以外の日に足浴をするなど、利用者の好みに応じた対応を行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その時間に応じて、活気・表情などを見極めて休んでいただくようにしています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬表を整理し、スタッフ全員がいつでも確認できるようにしています。薬剤師を招いた勉強会を開催しています。毎月2回薬剤師が来所し、薬の相談にのってもらっています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>単調な日々にならないように生活リハビリを中心に行うように努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日は、散歩や外気浴をしていただき、レストランに行ったり、なじみの利用店にも行くようにしています。</p>	<p>天気の良い日はほぼ毎日20分程度の散歩に出かけており、ヤギを飼育している近隣の公園への餌やりが人気の散歩コースとなっている。また家族の協力を得て、天王寺動物園や花の文化園などへ車で外出している。更に、利用者個人の希望により買い物や映画館等同行するなど、利用者の希望に沿ったできる限りの支援に努めている。</p>	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物や、利用店に行った際、ご本人にもお金を渡して支払いをしていただき、お釣りも直接もらえるように努めています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>スタッフからご家族への報告の際、ご本人と電話していただけるよう努力しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関に季節の花やリビングには、雛人形等を置き、季節感を取り入れ、また、清掃や消毒も踏まえ清潔保持にも努めています。</p>	<p>手入れの行き届いた日本庭園風の庭で日向ぼっこが出来るよう、玄関アプローチにはガーデンチェアとテーブルを置いている。庭ではトマトやイチゴ、きゅうりなどの旬の野菜を栽培し、収穫作業を利用者と一緒に行っている。窓が大きく明るい居間には、五月人形、クリスマスツリー等、季節を感じる事が出来るよう、季節に合わせた物品を飾っている。テレビを見たり、編み物をする等、利用者が自由にくつろげるようにソファを設置している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>決まった場所ではなく、いつでもどこでも自由にしていだけるような雰囲気作りに努めています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は常に清潔と整理整頓を心がけ、ご本人が使用していたなじみの物を置くようにしています。</p>	<p>居室はスッキリと動きやすいよう整理整頓がされている。ベッド、カーテンは事業所が備え付けている。各利用者は好みの掛け軸を掛けたり、思い出の写真を飾るなど、思い出の品を持ち込み、飾りつけをしている。職員はタンスの引き出しに収納物を示したシールを貼る等、利用者が出し入れに迷うことが少ないよう配慮をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所の表示をし、出来る限り分かるようにしています。</p>		

V アウトカム項目

<p>56 職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない</p>
<p>57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある</p>	<p>○</p>	<p>①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
<p>58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
<p>59 利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
<p>60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
<p>61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない